

---

# 召還する者と創り出す者

DEMIX.

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

召還する者と創り出す者

### 【Zマーク】

Z0637R

### 【作者名】

DEMIX.

### 【あらすじ】

一人の男が地球から排出され、リインバウムにて新たな生を授かり生きていく物語です。

こつちは筆休めに書くサモンナイト3の小説です。

もう一つ書いているネギまの方がメインなのでこつちは更に更新が遅いことが予想されます。

そんな小説でも良いと言つてくれる人がありましたら覗いていてください。

恋愛は一人一途になるか、ハーレムになると予想。  
(恋愛は物語において必要な物だと捉えているので入れます)  
つていうのは建前でニヤニヤしたいだけですサー セン w  
たぶんハーレムになると予想。

## プロローグ（前書き）

本編に詰まつたとき、ふと書きたくなつたときの憩いの場です。  
ゆつたりまつたりの～んびりって感じで書く予定です。

## プロローグ

### 「一人の男の独白」

俺は物の本質がわかる。

それは、人が嘘を付いている、こいつは悪人だとか見破ることが出来るわけではない。所詮そんなんは人並みだ。

別に俺が人より優れていると言いたいから見栄を張っているわけではない。そんなもんそこらの野良に喰わせてしまえ。

まあ何が言いたいかというと、俺は物の造りがわかる。それは『現実』、『幻想』を問わずだ。

例えばそうだな・・・『現実』の例では、ここに一つの拳銃がある。それを素人が見て、触つても内部構造など分からぬだろう。しかし、俺はそれを見ただけで頭に『設計図』<sup>パス</sup>が思い浮かぶ。

『幻想』の方では・・・そうだな、みんなの好きなロボットアニメを思い浮かべてくれ。ガンダムでもグレンラガンでもマクロスでもマジンガーでもゲッターでも何でもいい。そいつらをテレビで見るとする。その映像を見ただけでそいつらも『設計図』が思い浮かぶ。必要な素材もだ。

しかし、超合金<sup>ノ</sup>やガンダニユウム合金なんて物は此の世にない。その時にその世界にあるもので補うように変更される。それによる弊害もちゃんと分かる。

さらには、物の定義として、生きている・・・これでは語弊があるな・・・心がある? これだな。心のあるものの『設計図』は浮かんでこない。

長々と話してきたが、そんな俺が物創りが趣味(ここでは創ると言わせて頂く)になるのは当然の結果だろ?

白き部屋

そこには美しい女性と俺が立っている。  
目を開けるとそこには白い空間。何も無い空虚な空間。

「目は覚めましたか？」

## 女性が俺に問う。

「 うは？ どうなってんだ？」

ぶつちやけ意味が分からぬ。それに俺が”俺”であるはずの物がない。云わば”俺”的体である。  
そう・・・言い表すならば正に、靈魂の状態である。

「随分落ち着いていらっしゃいますね。普通こんな状況になつたら嫌でも落ち着くことなんて出来るはずが無いのに」

そう言われてもな・・・。

「俺は何事も冷静に、ポジティブに、何があつても諦めるなつて教わつていたからな」

何故か酷く曖昧にしか思い出せないが……。それはこの状況が原因なのだろう。

「では本題に入らせていただきます。あなたは本来の住人であり、の住人ではない。あなたがたその時から、は歪み始めました。」

所々が聞き取れない……。どうしてだ?

「ああ、言つてはいる意味が分からぬ……。といつよりも聞くことができないようですね。まあここはいいでしょう。あなたは、これから本来生を受けるはずだった イン ウ に生れ落ちてもらいます。」

少し聞こえてきたけど……。さつぱりだ。

「そのままリイン ウ に行き、そこからの行動はあなたの自由です。ああ、き にいた時の知識は引き継がれるようですね。混乱が無いように今この場で話していることも……しかし残念ながら親のことは思い出せないようです。」

「それは……なぜ?」

「リインバウ すら歪んでしまつ恐れがあるからです。しかし、ち き で得た、又、その上その手に入れたことを使って……。俗に言うオーバーテクノロジーを造つても、使ってくださつても構わないです。」

そんなことを話していると俺の体が不意に光り始めた。どうやらお別れの時間のようだ。

「リンバウムでの生は紛れも無いあなたの人生です。あなたの人生に果て無き幸福を・・・」

綺麗な女性だからこれでいいだろう。

「ありがとうございます・・・女神・・・さ・・・」

こうして俺は地球から消えた・・・そしてリンバウムに生を授かることとなつた。

to be continue .

## プロローグ（後書き）

さてはじめましたサモンナイト3の小説。

ぶつちやけ見切り発車の小説ですのでこの先どう進むのか予想すらできません。（主人公の名前すらまだ決めてませんし）

前書きに書きましたように。こつちはサブなので更新は遅いです。それでもよければよろしくお願いします。

主人公の意識がまだはっきりしていないので暗いように感じますが、明るい性格にする予定です。

感想、誤字・脱字等がありましたらよろしくお願いします。

どひじょひ……RQ還する者の出番が終わつたW  
伏線にでも考え方かな？

赤ん坊になりました。それでも僕は元気です。（前書き）

さすがにあれだけではあれなので（あれってなんだよ・・・（汗））  
投稿します。

赤ん坊になりました。それでも僕は元気です。

何かが聞こえる……。

優しく包まれるような……。そんな声が……。

て

また聞こえてくる……。

誰だろ?……。

きて

きて?……?

起きて

その声と共に俺の意識は浮上した。

目の前には綺麗な女性の顔があった。

「やつと起きたみたいね。寝坊助さんは

「やつと起きたみたいね。寝坊助さんは

女性は俺を見ると綺麗な笑みを浮かべた。

「この人誰だ？こんな綺麗な女性を俺は知らないぞ？  
ていうか俺の今の状況はどんな状況だ？つてもしかして抱かれてる  
のか？！」

「ア……ア……」

声も出せねーしーしかも視界もピンボケしてるみたいに見えねー…

…。  
考えたくないようだが……俺……今赤ん坊！？

いやいやいや！思春期に少年から大人に変わるのなら分かるけど青  
年から赤ん坊は聞いたこと無いぞ徳さん！！

もちつけ、もとい落ち着け！そりゃこよー！

でもこれはないだろ！……。思い出せ。何があつた？

俺は大学生だつたような？発明好きの。

そういう夢を見たな……。そうだ！それで綺麗な女神様に出会つ  
たんだ！それで確かリインバウムで生きろとか言われたな。

「そうだー！」飯にしましょー？」

俺が考えを巡らせていると女性がそう提案してきた。まあ声が出せ  
ないから返答なんて出来ないんだけどな。

女性が俺を布団に寝かしどこかに出て行つた。その間に田を周りに  
向けてみたけど見づらいことこの上ない。

首も動かせないし、周囲も全然見えやしない。分かることは寂れて  
いるということぐらいだな。

「じゃあアッシュ、食べよっか」

俺ににぱっと笑いかけてきながらちつと言つてきた。俺の新しい名前  
はアッシュ。  
ていうかやつぱり俺はミルクなんですか……。なんとなく予想して  
はいたけど辛い……。こんなんでやつていけんのか？

俺は今後の苦労しそうな未来に思いを馳せた……。

・・・・・

～そして時は流れ～

キングクリムゾンじゃないよ？俺はしつかり生きてきたよ？ボスな  
んていなによ？何があったかは心の奥底にしまつておぐ」とにして  
おこつ……。

排出物の世話とか……死ねるね……。

今まで生きてきて分かったことをじておぐ」としておこつよ。

この世界はリインバウムとこの世界であつてこないよ。だ。地球とい  
う世界は聞いたこと無いらしく。

母親（マリア）とこうお前らしことは血は繋がつておらず、拾われ

たらしい。因みに母と呼ぶことに躊躇<sup>ためら</sup>いはなかつた……母性が強いからか?

両親はおらず、俺を拾つて孤児院を開きたいと思つたらしい。しかし、財政が貧しいので要考案中である。このリンバウムでは召喚術<sup>じゆかんじゆ</sup>といつものがあるらしいが母親は使つたことがないようだ。

俺の母はそのままで記憶もあるので創り出すことが可能のようだ。

5年生きて分かつたことはこんなところだ。

俺のすることは物を造つて売る」とかね?母の夢も叶えてあげたいし……親孝行は大事ですよ?皆さん。

といつわけで俺は密かに地下に工場作つてました まるいや~本当に大変だつたよ……。母がぽわぽわした人じゃなかつたら絶対にばれてたね。

庭をドリルで掘つて「砂遊び?」とか聞いてくるとは思わなかつたぜ。因みに材料はスクラップ上から拾つてきたよ~エコだしプラス。お金で買えない価値がありそうだな……。

まあ造る物は日用品かね?アイロンとかミシンか?

この世界、リンバウムの他に四つの世界があつてそこから召喚中を召喚している。一つは『機界 ロレイラル』、二つ目は『鬼界 シルターン』、三つ目は『靈界 サプレス』、四つ目は『幻獸界 メイトルパ』がある。

他にも名も無き世界といつものあるらしいけどよくわかつていない。そのうちのロレイラルの恩恵があるのにも関わらず技術力はそこまで高くないようだ。

だから、俺が見つけた腕利きの商人に売つてもうつてるんだ……。

・

いや～まさかここまで売れるとは思わなかつたね。さすが商人！俺のことをガキだからと見下したりせず、対等に見てくれるしな。こんな商人に出会えてラッキーだつたぜ……。

side 若い商人

こんなことがあるんだな。

あれはそつ、たまたま街を歩いていたときだ……。

特に当ても無くぶらぶら歩いていたときに一人の少年が話しかけてきたんだ。

いや別に話しかけられることが珍しいと思つたわけじゃねえんだ。  
子供なら尚更だ。

でもその少年は俺に向かつて、「商売を手伝つてくれない？」って言つてきたんだ。

確かにその日は道具もたくさん持つて歩いていたから、商人だと分かるのはいいだろ。だけどな、その俺に向かつて商売を手伝えとはどういうことだ？

まずははじめに警戒心が出たよ。子供つていうのは無邪氣ゆえに、又は生きるために悪に手を染める。こいつもその類かと思つたんだがよ、話を聞いてみると自分の発明品を売つてほしいと言つてきたんだ。

遊びかと思つて適当にあしりおつと思つたんだがよ、設計図とか完成品を見せられたらそんな思いは無くなつたよ。

少年が見せてきた商品はこの世界にまったく無い技術で出来ててよ、これは売れると思ったんだ。それならば子供も老人も関係ない。商売をするだけだ。

少年と商談を交わしてみるとよ、こいつ全然子供つて感じじゃねえんだ。同年代の男と話してみたいたつたぜ。（言葉遣いとかは子供っぽいんだけどな）

それで最後にビーツして俺に話を持ち込んだのか聞いたりよ……。

「ん~、強いて言つなら……勘？」

とかの給いやがつた。こいつこは勝てないと思いつつ、いい取引が出来たと思つたよ。

side out

そんな感じに商売してもらつていたらかなりの金を手に入れられたぜ。因みに匿名にしてもらつてるぜ？色々面倒だしな……。  
これで家もリフォームして孤児院も開けるぜ……問題はビーツやって金を母さんに渡すかだよな……。  
まあそれなりに稼げてるから新しい物造つつつ趣味のほうにも手を出してみるか……。

ハーリーはそんな子供とは思えない思いを巡らせつつ物思いに耽る

の  
だ  
つ  
た。

赤ん坊になりました。それでも僕は元気です。（後書き）

今回は「」のみです。

誤字・脱字、感想等がありましたら気軽にお願ひします。

せったね妙ひもん家族が（おこやめり（前書き）

ちまちま投稿）

タイトルはあれです……調べると鬱になります。グーグル先生に頼るのはお勧めしませんw

やつたね妙ちやん家族が（おいやめり

『とある少年の日記よつ』

みんなー集まつてーーアッシュ（＝）から赤黒い色で塗りつぶされている……）

と、まあこんなテンションのみんな大好きアッシュさんだよー。生まれてから色々あつた訳ですが、今回はなんと家族が増えたお話について話します！

実は前回のお話の後に三人の家族とロボ、番犬が家族に増たよー。それを綴つていいくよ！

（少女カリンとの邂逅のお話）

俺は今唐突だがロボを創つている。なんかこのロレイラルにも機械兵士つてのがいるらしいけど、そんな戦闘特化でなくてなんていうか……そうーメイー、家政、新しい家族だ！

ちょっと趣味思考がボロボロ出てたけどそんな感じ。創つてはいる  
んだけど肝心なA.I.がまだできていんすよ～。

フォルムは俺の田で見て覚えた物で創つたんだけどさあ……A.I.は  
俗に言う心の部分だからねえ？（心臓違うよ～どっちかって言うと  
脳？）

む～ん……こんな行き詰つてている時には気分転換に限る！

「母上様～ちよつち放浪してくる！」

「ちゃんと夕飯までには帰つてきてね～」

……色々とスルーされてしまった。切ない……（・・・・・）

この悲しみを胸に一曲引かせていただきます。実は俺、オカリナ吹  
けるんだぜ？

曲は知つてゐ人は知つてゐる曲……とでも言わせて貰おうかね？

テツ テレレレーレ テーレッ テレー

～少年吹き歩き中～

ニヤー  
ウォーン  
カー  
パオーン  
ブニヤー

パオーン？ブニヤー？！ ふう～、俺としたことが色々な動物に好

かれちまつたぜ！

でもいつまでもこのままでいるわけじゃないのよ？

「今日はここまで、みんな！解散しろ……お前たちは氣をつけて（動物園に）帰れよ！」

一斉に散つていぐ動物達。いや～ちゃんとしたつこと聞いてくれるから動物はいいね！

それに比べて腐つた大人達は……やれやれ（クイクイツ

「なんだ？まだ残つてたのか。今日はもう解……わ……ん？」

「もうお終い？」

あ……ありのまま今起しつたことを話すぜ！

『おれは解散を命じたのに甘えたいために残つていた動物が服を引つ張つていると思つて振り向いたら少女だつたぜ』

な……何を言つているのかわからぬーと思つがおれもびびつてなつたのかわからなかつた……

頭がどうにかなりそうだった……

催眠術だとか超スピードだとかそんなチャチなもんじやだんじてねえ

もつと恐ろしいものの片鱗を味わつたぜ……

「ねえ！ もうお終いになっちゃったの？」

「あ……ああ、今日はもうお終いだ。悪いな」

「そつかー。残念」

そう言って本当に残念そうな顔をカリンはしている。  
その少女を良く見てみるとボロ布を纏まどつただけのよつな格好をして  
いた。

「そこな少女よ、お前の名前は何で言つんだ？ 僕の名前はアッシュ  
コット言つんだ」

「え？ 私の名前？ 私の名前はカリンって言つんだ」

「そつか、じゃあカリンは何處で暮らしてるんだ？」

「私はあそこで暮らしてるんだ……」

そう言ってカリンが指差した場所は、路地裏だった。  
それを聞いてしまつたらさすがに放置はアッシュには無理だった。

「そつか……他にも誰か？」

「ん~ん、私だけ」

カリンは暗い顔をして返答した。

年端もいかない少女がこんなところで暮らしてゐつて……。

本当に世の中は理不尽だよなー龜！

「やつか……じゃあ、いつこ来ない？」

「え？」

「リリに暮らりやなればならぬ理由なんて無いでしょ？…じゃあつ  
かに来て一緒に暮らうよ」

笑顔を向けて言つてしまふよ！ 不安させないためにですよ！

「本当に…？ 行つてもいいの？」

「ちいさんだ！ 囗さんも歓迎するぜー よーし、いつなつたら書  
は急げだ！早く帰るつー」

「…………うんーー！」

カリンは毗<sup>まなじり</sup>に涙を湛えているが、笑顔で答えた。

・・・・・

「ただいま、匂さん」

「お邪魔します」

お邪魔しますつてカリンさん。

「違うよカリン、ほり」

「……ただいま」

「上出来ー」

そつまつて頭に手を置いて撫でる。

いやー結構良いもんだねこれ。癖になりますー。

「お帰りアッショ、この子は?」

「拾ってきた新しく家族になるカリンー」

「拾われてきたカリンです」

「そつか、じゃあお風呂に入つて、飯にしつづ?」

いやいや母上様、そんなにあつたつ……。

まあ母さんが断るわけないか。金も今はたくさんあるし。

「じゃあみんなでお風呂に入つたつ?」

「こやこやこやー、俺は遠慮しつべよーーー!」

「そつか、残念。じゃあカリンちゃん行つ?」

そう言って母さんはカリンの手を引いて行つた。

てこうか俺が間違つてゐるのか?いやしかし俺は精神年齢なら青年の

域だからな……。

こんなこと考えてても仕方ないか。なんとなくヒントも掴めたし、  
AI創りにでも取り組もつかね。

### 『風呂場での一時』

side カリン

今日私は拾われてきた。動物の群れが出来ていたから着いていったらその先に私とあまり年の変わらない少年がオカリナを吹いていた。少しあつて解散してしまったので、少年に話しかけてからどんどん展開が代わってしまって、今の私は軽いパニックになっているのかな?

でもこれだけはわかる。私は少年と同じ田の前にいる女性に救われたんだな言つことが……。それにこの気持ちは……。

「じゃあ遅れたけど田舎口紹介しようか。私の名前はマリア、よろしくね?」

「よろしくおね「敬語じゃなくて良いよ?私たちは家族になつたんだから」「へいみよ」「へいへい」

優しそうな女性だな……年も若いし。本当にアッシュのお母さん?その柔らかな雰囲気に後押しされて色々とマリアに聞いてみた。そして解つたことは、マリアとアッシュは血が繋がつてないと言うことだった。けれど本当の家族と同じよつて……もしくはそれ以上の仲のよさだと言つことだった。

「おぬれは

「「つと?」何?」

「おぬれはと髪つのも、やつ呼んでことと髪われたか?」  
「うつ呼んで。

「アッシュコつて彼女こる?」

「こなこと髪つナビナビ……どつして?」

「こや…… しれはチャンスかな?」

「ふふ…… そつか。私は特に反対も何も無いから自分の心で素直に  
なりなさい?」

「あつがとう!」

アッシュコは彼女がいないのか……。お母さんが髪つてくれたよつて、  
私は私の好きにしようかな?

side out

なんか寒気がしたぞ? 気のせい? ?

まあいいか。そろそろ風呂が空く頃かな? A-Iの方も区切りがいい  
し、今日まじままでこじとけ。

アッシュは風呂に入るために片づけを始めた。

アッシュ7歳、カリント5歳の出来事だった。

（少年ロイと少女ベルとの邂逅）

『とある路地裏にて』

side 三人称

「ベル！ 大丈夫か？」

「ハア……ハア……うん」

暗い路地裏を一人の兄妹が疾走している。その後ろには黒い服を着た二人の男。

傍から見たらただ事ではないのは一目瞭然である。しかし、路地裏なので、いるのは精々猫ぐらいのものだろう。（虫などをカウントしなければだが）

「畜生！ 何だつてこんな……とにかく逃げるぞ……」

少年は息巻きながらそう捲くし立てる、少女の手を取り尚も走り続ける。

少年はわかつているのだろう。逃げ続けても意味は無いこと……。しかし、そうするしかない。

一介の少年では、そうすることしかできないのだから……。

「アツ！ 痛い……」

「大丈夫か！？」

遂に少女が力尽き倒れてしまった。元々大人と子供では脚力が違うのに無理して逃げ続けたのだ。

褒めこそすれ、文句は言えないのだろう。少年もそのところをわかっているので、焦つてはいても心配することをやめられないだろう。

「やつと追いついた！ 糞餓鬼ども！」

そして、大人たちに追いつかれて手を掴まれ、その場から連れてかれるその瞬間に、場違いな少年の声が響いた。

「これこれ其処の御方達。子供に乱暴はいかんよ

……口調は変だつたが……。

なんか怒鳴り声が聞こえてきたから覗いてみたら、子供一人が連れて行かれそうになつてんぞ？

ここで見逃すのは大人として無理だな！（アッシュは子供です。本当にあ「よ）

「これこれ其処の御方達。子供達に乱暴はいかんよ」

そう声をかけると明らかにヤのつゝ職業の人達がこちらを振り向いて困惑している。

まさかこの場面を見た子供が落ち着き払つた声で話しかけてくるとは到底思わなかつたのだろう。

「いやあのね？ この子達の親が捜してゐるから連れて行こうと思つたんだけど、ごねてたからしかたなくね？」

関係ない子供だから言い聞かせるようにするつてことは話が通じるみたいだな……。

ならば秘儀！ お金（話し合ひ）で解決しよう……なんか本音と建前が逆になつた気がするな……気のせいかな？

「いやー、誤魔化さなくて良いですよ？ いくらで子供達を卖つたんですか？」

おーおーおー、吃驚してんね。まあ10歳そこらの餓鬼がこんな話は普通しないからな……。

「貴様、何者だ？」

「いやいや、私は何処にでもいる子供ですよ。それよりこゝへりですか？」

「……一億 <sup>バーム</sup> bだ」

「話がわかりますね。その値段で買いましょう」

ありやま、またおどろいてんね。

子供たちまで驚いた顔してん。人身売買なんて本当はやりたくないんだがしかたないよね！

そつアッショウは懐から携帯を取り出した。

そう言えばこの世界は携帯電話ないんだよね。しかたないから家に電波塔モードキをつくったよ！

「少々お待ちを……もしもし？ 僕僕！ そつアッショウだよ！ 今から言つとこりにお金持つてきて。一億ね。うん、うん、悪いね」

「何をしてたんだ？」

「ちよつと家族に連絡を。すぐ元気にならるとゆつのでちよつと待つてください」

俺俺詐欺の意味ないね？ だつて電話が普及してないもの……。

そのままちよつと待つていると、カリンがアッショウケースを持ってやってきた。

「アッシュ！ 見ての通り持つてきたけど……」

「よくやった妹よ！ ではこれを確認してください。」

そう言つて男達に渡してやつた。本物の金だからじつと見んとつて  
う。え？ 確認ぐらいするだろ？ ですよね。

「確かに受け取つた。金を払えばあなたは密だ。今後とも御贔屓うきこきに  
！」

そう礼儀正しく言つた後、男達は帰つていつた。（その後ろで逃げ  
ていた少年は舌を出してあつかんべーしていたが……）

「わい……と、俺の名前はアッシュ。そして、こいつがカリン。君た  
ちの名前は？」

これがファーストコンタクトだ。少年は考え込んでるし、少女はオ  
ロオロしてゐし……ビリしたものが。

「そんなに暗々（けんけん）しなさんな。俺達の要求は君たちに家  
族になつて欲しいんだが……ビリだ？」

「そんなに暗々（けんけん）しなさんな。俺の名前はベルだ。お前達は俺達  
がなつちやしじうがないんだが……」

おどりいてんね。今日みんな驚きすげじゃね？ いやまあじょう  
がないつちやしじうがないんだが…… お前が原因

そして少年よ。そんなに考え込まんでも良いんじゃよ？ お前が原因

「本気か？ 僕達は売られたんだぞ？ そんな奴を家族にするなんて……」

「別に家族になるのに理由は要らなくね？ 家族と認めたんならもう家族だろ」

「ん？ よう…少女が兄の袖をひいてんぞ？」

「信じてみよ」お兄ちゃん

「そっか……お前が言つなら…な」

「なんか大人だね～、子供らしくこいつぜよ！」

「よしよし、それじゃ俺が長男でロイが次男、カリンが長女でベルが次女だな！ こうしてらんない！ 母さんに報告してくる。（かりん、こいつらの心を解してくれないか？ お前も境遇は同じだろ？）」

「（わかつたよ）じゃあ先に行つて？ 私達はゆっくり向かうから

「委細承知！」

後はカリンに任せれば大丈夫だよな？ そうと決まれば歓迎の料理を母さんと一緒につくねーと。

side カリン

「じゃあ行こうか？」

やつぱり緊張してるね？ アッシュに頼まれたし……どうしようか？

「そうだ、二人に昔話をしようか。あれはそつ……」

一人とも急な話に吃驚したけど私の話を聞いてくれた。そして、わたしも拾われたって事を言つたら驚かれた。

「カリンさん！」

「カリン。それがあ姊ちゃんとか、姊貴ってのもいいね！」

「……姉貴は……いや、なんでもない」

「そつか……ベルもお姊ちゃんつて呼んでね？」

「あの！ えっと……お姊ちゃん……」

「初々しいね～、素直な子は好きだぞ？ さて、アッシュもお母さんも待ってるだろ？ しおりこ？」

私の仕事はここまで。後は順々にね？

「ただいまーー！」

「…………ただいま」

「えつとー。えつとー。ただいま……」

「お？ やつと帰ってきたか。うん！ 一人ともいい顔してるね？」

「あらあら。あなた達がアッショの言つてた子達ね？ 私の名前はマリア。私のことはお母さんって呼んでね？」

「わたくわたく一人に打ち解けてんな……。まあなんかそんなオーラこつも出してるしな……。

「母さん、話すのも良いけど先にご飯にしておきまーー。」

「やうね。やうじよつかー！」

そう言つて台所に行つとしたところドロイが今までのことを振り切るように大きな声を出した。

「これから……これからよろしく……！」

俺達は驚いたけど、その後直ぐに、みんなの笑顔がはじけた。

アッシュ10歳、カリン8歳、ロイ7歳、ベル5歳の出来事だった。

その後色々なイベントがあつたけど、一番大きいのはロボットと番犬を創つたことかね～。

カリンもロイもベルもみんな頭が良いから一緒に色々考えて創つたよ！

ロボットの名前はアイギス！ ペル<sub>3</sub>に出てくる奴をモデルにしてるよ！ AIもしつかりしてるし、人間といつても過言ではない！ それと番犬は種に出てくるラゴウをモデルにして創つたよ！ こいつもロボとは思えない知能だから可愛いぜ！ 頭なでも堅いのが少し残念だ……。

そんなこんなで家族がたくさん増えたよ！ やっぱり家族は沢山いた方が楽しいね！

せめたね妙ひやん家族が（おこやめり（後書き）

といつわけで家族編でした。

番犬をなぜリ「」にしたかといつと好きだからです！・EVでも良  
く使つてゐしれ..。

後何話か挿んだら軍学校編にしようかな？

誤字・脱字、感想等が「」ございましたらよろしくお願いします。

江口: とにかくやってみれば黒壁が張りやねー? (前書き)

暇がない

田常編

今回は会話増し増しです!

「どうしてお兄ちゃんが黒歴史張りじゃねー?」

### side ベル

初めまして。私の名前はベルと言います。

今日は私とお兄ちゃんを引き取ってくれたアッシュお兄ちゃんの一日を綴つてみます

～5：30 起床～

アッシュお兄ちゃんの

朝は早いです。この時間に起きているのはお母さんだけです。

身支度を整えて走り込みをしているみたいです。理由を聞いてみたところ

「体力はあつて困らないし……な? 追っかけられたときとか……  
(カリンから……な」

なんか頬を搔きながら答えてくれたけど……後半聞き取れなかつた  
し、苦笑してたのは何でかな?

～6：00 朝食～

私達は基本皆で「」飯を食べます。身支度を整えて私も居間に6：30頃には座っています。

この時にお兄ちゃんは起きれない事が多いので、アッシュお兄ちゃんが起こしに行きます。

「おわる～、おきないか～、おわなわ～……警笛はしたぞ？ 秘儀！ 死者の目覚め！！」

カンカンカンンッ！！

「一ギヤアアアア！」

……毎回思つんですけど、お兄ちゃん、猫の尻尾を踏みつけたりつた時みたいな声を上げてるけど大丈夫なのかな？

「7：00 機械弄り～

私達は皆で機械を創つたりします。アッショお兄ちゃん曰く私達は皆頭がいいそうです。

「ロイ、其処のスパン取つてくれ」

「はいよ

「サンキュー、ついでモンキーレンチも」

「はいはい」

「更についでパンとジュース買つて来い

「はいは……つて俺はパシリか！！」

「え～？ だつてロイお使いつて感じがしない？」

「な・ん・の・は・な・し・だーーー！」

「ベル、 いひち手伝ってくれない？」

「わかつた！」

お兄ちゃんとアッシュお兄ちゃんは仲がいいみたいで。  
私はカリンお姉ちゃんと特に仲がよくなりました！！

♪12:00　昼食♪

お匂い飯も朝い飯と同じで、 鮎で揃って食べます。

「アッシュ、 今日の後どうするの？」

「そうだな、 エさんば？」

「私はお掃除でもしようかしら？」

「手伝おつか？」

「アイギスがいるから大丈夫よ」

「そつか、 アイギス、 頼むな

「了解であります」

「と、 言つわけだ。 皆の衆、 邪魔しないよひしなー！ ロイとかロイ

とか口イとか

「なんで俺だけなんだよ！」

「胸に手を当てて考えてみなさい。カリンとベルと「ゴウが母さん  
の邪魔すると思つか?」

「まあそりゃなんだけよ…………だからって俺を指すのせいなんだよ」

「なんか哀愁漂わせてたからな……」

「あ、わり……叫ばせてんの兄貴だろーー！」

「まあまあ、俺の考えたモケーレ・ムベンベゴつこを教えてやるか

「意味わかんねーよ!! モケーレ・ムベジベツてなんだよ!!」

「コンピュ・ド・ラ・ゴン・ジル」の方がいいのか？

「だから何なんだよーーー！」

本当に仲がよさそうです。

アツシユお兄ちゃんは午後になると遊びに行く」とがっこです。  
近所の子達とも仲が良くて……えつと……ガキ大将……って言つたで  
したつけ？  
そんな地位を獲得しています。

「よしお前ら、今日は何すつか？」

「アツシユが決めてよー。」

「アツシユの教えてくれる遊びは面白だからなー。」

「確かに兄貴の遊びは楽しいけどな……どーセ遊びのことしか考えて  
ないからだろーけどな」

「何を言つかねロイ君よー。その通りに決まつてるじやないか」

（ 、 、 、 、 ） ヘドヤッ！

「何誇らしげに言つてんだよ……てかその顔ウザイー……」

「ハロイーー 兄に向かつてウザイなんて言葉を使つんじやない！  
やつべ、俺超カッコイイ！」

（ 、 、 、 、 ） ヘドヤッ！

「だから私の顔やめおおおおおおおおおーー。」

「あー、ロイ君はまつとて何しようかー？……クイズなんてどう  
だ？」

「面白そつだからそれをしようぜーーー。」

「確かにー。」

「わかつたよコイル君にデビット君。それにしても他の子が風邪とはついてないね……君達も気をつけるよひよーーー。」

「わかつたーーー。」

「準備するからちよつと待つて。取りに行くぞロイ

「はいはい、解つたよ

（10分後）

空き地にはなにか机とボタンがあるものがセットされています。確かあればアッシュお兄ちゃんが、いつか使うかもしれないって言って創つてたやつだっけ？

「遂に始まりました私の私による私の独断で行つクイズ！ 略してどつぐいーーー をはじめます。」

「回答者はコイルとデビットだけだがな……」

「それではルール説明をしていきます。まずこのクイズは順番に一問ずつ回答してもらいます。そして、このクイズは何と……早押しです」

「え……？ 順番に答えるんなら早押し入らなくね？ 一体何を競

うんだよーー?」

「お手つきなんてややこしいルールはありません。でもお手つきとかは嫌ですね~、まあ嫌つてだけなんですねけど……感じが悪いですね~」

「ないのかよー、ならその説明要らないだろー?」

「先に二問正解した方の勝ちです。それでは決勝戦を始めます」

「決勝戦!? 一回目なのに!?」

「それではコイルさんに問題です。 出題者である私の名前は……アッ……?」

「……え? ……シゴ?」

「正解! でも少し遅かったですね~。もう少しでタイムオーバーでしたよ。タイムオーバーありませんけど」

「ないのかよー!」

「まだまだだな~コイル! 僕の方が早く答えてやるぜーー!」

「それではデビット君に問題です。軍人が主に使う中距離で役立つ細長い武器は……」

「(やつらのむせうだし今回も簡単すぎんだろ…… 答えは槍だろ?)

「

「槍ですが、槍で切られると?..」

「痛い!..」

「正解! 危なげない回答お見事です」

「えええええええ!..? 槍のワードはまだないよ.. でも答えた  
が痛いひどいことだよ!..」

「では「イル君に問題です。これから言ひ文字の順番を並び替えて  
人名を答えてください。それではいきます。ト、ビ、ツ」

「トリビットー」

「正解! 問題全部出る前に答えてしまつなんて凄すぎます!..」

「やねな「イル!..」

「へへーん! 横たつで出来るんだぞ!..」

「いやいやいやいや、並び替えたよなこれ? 一個も並び替えてな  
こつじぢづこつじだー!.. ほんなんじや終わんねーぞ!..」

「もう思こますよね? しかしながら、わたくしの問題…………… 1ポ  
イントです!..」

「え? 今まで何ポイントだったんだ?..」

「1ポイントです」

「え？ 今まで1ポイントで、今のが？」

「1ポイントです。コイル君に贈呈されます」

「え？ チョッ！？」

「次は『デビットさんへ問題です。驚かないで下さい。何と次の問題を正解すると……1ポイントです』

「え！… マジかよ！…」

「デビットお前は何に驚いてんだ！」

「では問題です。マリアさんを母親に持つ家の子供の長男は……アツシユですが、木曜日に長男をしている人は？」

「アツシユ！…」

「正解！ いや～引っかからずよく解けました！…」

「もう問題の体を保ててない！？」

「それでは最後の問題です。最後の問題は本当に早押しです。それではいきます。ロイの妹であるベルはロイのことを普段どう思っているのでしょうか？」

「財布！」

「先に生まれただけの人！」

「よひじめお前らが俺のことをどうぞ細ひつ細つてこらのかよへくわかった  
……」

「お兄さん……」

「正解……優勝は何と……コイル君です！」

「おめでたでめおめ！」

「あっがとうデビット君……」

「やつ好きにしき……」

楽しそうにしてたけどお兄ちゃんが疲れました。

（18：00 晩御飯）

晩御飯も既に揃つて一緒に食べます。やつぱり家族の団欒は良いですね！

「あー、兄貴それ俺の……」

「フツー！ 戦場ではその油断が命取りになるぜー！」

「なんだアッショ、欲しかつたら上げたのに……その代わりアッショを食べさせ……」

「カリンさん……その先を子供が言つてはこけませんぜよー。」

「ねえお姉さん、カリンお姉ちゃんが言つたのつてどうこいつ意味?」

「あーあー まだベルちゃんには早いわよ」

他の姉元も聞いてみたけど誰も答えてくれませんでした……なんでだろ?」

～20:00 子供会議～

「これよつ子供会議を始めます」

「はー! アッショ会議!」

「なんだねカリン君!」

「今日も楽しい一日が過(つ)せた! だからこの後も、最後までいい一日にあるために私の部屋に来て?」

「却下します。そのお誘(いざな)いは嬉しいですが、子供が言つ(つ)いではあります。では次にロイ君」

「今日もこつもと回(まわ)じで平和だったよ……ああ……いつも通りで兄貴に振り回される一日だったよ……」

「それはいいことだ! これからも励むよつ!。最後にベル君」

「今日も楽しい一日だったよ!」

「つむー 善き哉善き哉。では本日は特に議題も無いのでこれでお

終い！

この家では子供会議を特別な用事がなければやっています。なんでも、じうじうことをしておけば家族のことがもっと解る様になるからだそうです。

～21：00 就寝～

私は大体この時間に寝ます。みんなも大体そっただけどアッシュお兄ちゃんは違うみたいです。

早起きしているので、健康に気を付けてもらいたいです。

それでは皆様、お休みなさい。

口記ひしてみてみれば黒歴史帳じゃねー? (後書き)

いや～大変でした。今回の最後まで書いてたら半ばまでトータ吹き飛びました。」  
「（。口） 口コハドコ? （ー口。） ネアタシハダアレ? もつ

一瞬こんな感じにwww

アイギスさんを入れたかつたけど話を書いてたら一言だけに……あれ?

クイズのどじれはー「動のとある動画をパクっています。面白いので探してみてください。  
めだか194様。誤字の指摘本当にありがとうございました。

誤字・脱字、感想等がございましたらよろしくお願いします。

優しいお父さん……尻に敷かれるんですね解ります（前書き）

久しぶりに更新♪

暑いね♪

眠いね♪

死にたい

… WWW

優しいお父さん……尻に敷かれたんですね解ります

「うーうーうーうーうー……緊急かつかか会議を開催ししし s s s s s  
( へへ )

「おい！ 兄貴いつたこどうしたんだよ！」

「今日のアッシュお兄ちゃん変だね？」

「確かにそうね……」

周りの議員が何か言つているがそんなことはどうでもいい。  
今日は特大のニュースがあるからな！ 因みにニュースは英語だと  
“new” “s” で濁るんだぜ！！  
つて、そんな事考えている場合じゃねえ！

「今日の議題は……これだ！！」

＼バーン＼バーン＼バーン＼

「母さんがどこかの馬の骨とイチャラブしているらしい！？」  
マリア孤児院……」

「なんだよこれ！？ 無駄に凝った装飾がされてるし……」

製作期間三日の徹夜だぜよ~

母さんが楽しそうに男と話しているの見てから不眠不休だからやばい

.....

「あ~クラクラする~」

「じゃあ今日はもう寝る~ 私の腕のな・か・で~」

「わたくし直ぐやるぞがんばるわ~」

「アッショお兄ちゃん大丈夫?」

「ありがとうベル、君のおかげで頑張れるよ~」

ベル……君は何てええ子なんや……。俺の事を純粹に心配してくれるのは君だけだよ(ホロリ)。

口イと血が繋がつてるとは到底……。

「あ? 何じつと見てんだよ」

「いやいや、シンボレさんだから繋がつているか……」

「何がだよーー 一人で納得してんじゃねーー」

「さて、脱線していたが今日の議題について皆の意見を書いて欲しい

い

「そもそもその話は本当なの？ 私は見たこと無いんだけど……」

「わ、わたしは見た事あるよ？ とっても樂しかったよ？」

「俺は……ないな。」

「まあその口はお前達にお使い頼んでたからな」

「確か…… オイ！ 俺に鉄扇なんか買いに行かせてたよな？ そんなもの見つかんなかつたけどな」

「ああ、そんな物を頼んだ記憶があるね～。」

「因みにカリンにはそんなかわいそうなことはしないよ？ 本当だよ？ そんなことするのは今のところ口イイ（弄られ訳）だけだよ？」

54

「せうだな…… じゃあ居ると考えて、またお互に譲からず思つて  
いると想定して議議題を進めるぞ」

「そのことなんだけどさ～、アッショウはお母さんがその人と付き合  
うのは賛成？ それとも反対？」

「何を馬鹿なことを！ 母さんが好きになつた人なら無論賛成だ！  
まあいすれ顔合わせするだらつし、その時にその人の性格とかは  
わかるだろ」

「まあアッショウならやつぱりわいね…… あなた達は？」

ん？ 進行役取られてるじゃないかだって？  
別にいんでね？ 積極的に参加するのはいいことだよチ!!。

「俺も母さんが幸せになれるなら賛成だぞ」

「わたしもお母さんが幸せになれるなら……」

「ふむふむ、じゃあ満場一致で賛成ってことでおk? 「.

「私もいいと思うよ」

「じゃあ今度会った時にでも支援しますか。それでは今日の議題は終了！ 齒を磨いて寝るよつて……解散！」

血の繋がっていない俺らを大切に育ててくれている母さんだ。  
幸せになつてもらわなきゃな……。

side フレン

どうも、僕の名前はフレンと言います。僕には好きな人が居ます。  
その人は孤児院の運営者のマリアさんという人です。

その人は美人であり、周りの人的心を暖かくさせるような雰囲気をいつも纏っています。

その人を見かけたのは、軍を足の怪我により退職して、どうしようか考えているときに偶々（たまたま）見かけました。

町の通路を通りていったときにすれ違いました。その時私は彼女のこと……笑わないでくださいね？

その……天使に見えました。そして立ち止まって彼女がこちらに向かってくるのを呆然と見ているとですね、見ている私に気付いたのか微笑みながらお辞儀をしてくれました。

もうイチコロでしたね。その日から私は彼女のことで頭がいっぱいになりましたよ。

そんな日から幾日か重ねた後、八百屋に買い物に出たときにまた会いました……その時に思い切って話かけてみました。

「 もう今日は、いい天気ですね？」

つい緊張してしまいましたね。恥ずかしながら噛んでしまいましたよ。

彼女は僕の言葉を聞いてキヨトンとした後、微笑みながら

「 そうですね？ 今日もいい一日になります」

つて返してくれました。本当、その時は天にでも昇る勢いでしたよ。そんなことが切欠で、彼女、マリアさんと仲良くなることが出来ました！

そして明日、なんと彼女の家に招待されてしまいました。もう嬉しそぎて明日が待ち遠しいです。

side out

今日は母さんの友達が来るらしい。まあ例のあの人（魔法学校の秃に非ず）が来るのだろう。

母さんも今日はいつも以上に明るい……。じゃあ早速作戦会議と行きますか。

「今日に、例のあの人があらりじこ。皆する」とをわかっているな？」

「その人を見極める、悪い印象を『ええないみたいな感じ？』

「俺が話しかけてみるから普通に過ぐすのでも可だ」

「じゃあ俺は観察だけでいいや」

「わたしは……どうすればいいのかな？」

「ベルは私と一緒に居ましょ？」

「よしー。考えは纏まつたな？ それでいくぞーーー！」

まあそんなこんなで、今男の人が母さんと話してるぜよ。  
見た感じ好青年だし、裏表もなさそうな人だな?  
母さんとの相性も良さそうだし……。

アッシュが周りの子供達に視線を巡らせて見ると、皆親指を立てて  
いた。

いやなぜアイギスまで? いや、家族だからか……愚問だったな。

「じゃあ今日はもう帰ります。君たちも急にお邪魔しちゃって悪か  
つたね?」

周りへの気配りも000だな。これなら……

「いえいえ、未来の義父さんとなる人かもしれませんし」

「!?!? ゴホゴホッ!-!-」

おやおや初心だね~?

「アッシュ? 急にそんなこと言ひやがや 駄目でしょ?」

幽さんも否定の言葉はなしが……。いつやもつ確定だね？

「いや、いいですよ。アッシュ君だよね？ とはわからないよ」嬉しさにけどまだ先のこ

これらも否定の言葉はなし、相思相愛か。 YATTANE !

「そうですね（ボソッ）でもあなたならいいと僕たち家族は思つて  
います」

「お前がお前で、おれがおれで、おれのやうなへども、お前がおれのやうなへども、おれがお前のお前にならへんのか？」

「はこ、ハリハリ舐める子は嘘っこ子の様なので……。それではお邪魔しました」

皆応援しているから頑張ってくださいよ？

この三ヵ月後、正式に義父さんことフレンは、俺たちの家族になりました。

優しいお父さん……尻に敷かれたんですね解ります（後書き）

これで家族は今のところ全員かな?  
フレンが軍に所属していたならアッシュの軍入りがしやすいかなと  
思ったのでそういう設定です。

この後キャラ説明を一本挿んだ後、軍学校編に行きます。

誤字・脱字、感想がございましたらよろしくお願ひします。

## 設定集（前書き）

### 設定集（

自分の中のキャラ設定を載せていきます。  
とばしてもせんせんおくです。

名前を見てきて気付いた人が居るかもしだせんが、作者はテイルズ結構好きです^ ^。

アッシュ・・・そのまま（しかし私の中の主人公は某ファンタムの方）

マリア・・・聖母マリアから（テイルズ関係なし）

カリン・・・私のボーイッシュなキャラの想像から（テイルズ関係なし）

ロイ・・・ロイドから（シンフォニアの主人公から）

ベル・・・藤林すずから（赤ずきんちゃんのお鈴 SF C版ファンタジアの服部すず PS版以降の藤林すず 鈴ベル（今ここ））

フレン・・・そのまま（ヴェスペリアの主人公ユーリの親友）

（アッシュ）

今作の主人公。

イメージはエカルラートを使う人の人。

性格は仲間のためならどこまでも非道になれるが、基本はお人好し。そして底抜けに明るい性格。

メカニックで、どんな物でも創れるといつても過言ではない。

使用武器は『がるぐる』などに登場する潤愛用武器の『一刀？チエンソー』。または、銃やアニメ武器（基本はガンダムかな？）

（マリア）

主人公の母親代わりの人。

髪は肩ぐらいまであり、茶髪。

性格はおつとりした人。または、のほほんとした人。さらには、全てを包み込むような人と二拍子揃っている。家事のことならドンと来いのスペシャリスト。使用武器？はフライパン（お母さんの武器ですねわかります。しかし、リプレママは麺棒だった気が……w）

～カリ～

マリア家の長女。

髪はポニテにしていて、茶髪。

性格はボーアッシュ。アッシュ至上主義。だからと言って家族を蔑ろにするとかいったことはまったく無く愛している。頭が良くアッシュのメカ創りのサポートをしている。使用武器は基本は拳と足。しかし籠手や脛当てを装着しており、そこから衝撃波を出し、インパクト時に外側だけでなく内側からもボロボロにするエグイ装備を用いる。

～ロイ～

マリア家の次男。

髪は短髪で切りそろえられていて、黒髪。

性格は勝気。そして、なんだかんだで優しく、文句を言いつつ頼まれたことはちやんとする。家族思い。

頭が良くアッシュのメカ創りのサポートをしている。

使用武器は盾。盾で兔に角どつく。ギミックも沢山あり、全てはアッシュとロイしか知っていない。

「ベル」

マリア家の次女。  
髪はボブの黒髪。

性格は内気。しかし、親しい物にはその傾向が薄い。家族思いであり、兄思い。

頭が良くアッシュのメカ創りのサポートをしている。  
使用武器は銃。魔力を固めて打ち出すので、強さは自由自在。

「フレン」

マリア家のお父さん。

髪は短髪でツンツンしていて、金髪。  
眼鏡をかけている。

足に怪我を負っているが、歩けないほどではない。  
性格は優しくお人好し。いい人。家族思い。

発想力が高く、アッシュに色々と案を提案している。  
使用武器はロングソード。ギミックは特になし。しかし、上記の理由により戦うことは稀。

## 設定集（後書き）

取り合えずこんな感じかな?

思いついたら順々に増やしていきます。

エルカラート エカルラート

はんぺん食べたい様誤字の報告ありがとうございました!

受験が近づいてきたので、さらに投稿が遅くなると思います。  
しかし、投げるつもりは無いので気長にお待ちください。

可愛いこ子には旅をさせぬ…… 可愛いこ子俺ー？（前書き）

皆さん久しぶりです！

本来ならネギまの方を更新すべきだと思いましたが、こっちの方が  
少ないので増やすために受験勉強そーい！して更新しますw

可愛い子には旅をさせよ……可愛い子俺！？

「アッショ、頑張つてきてね！」

「<sup>すす</sup>薦めた僕だから<sup>さう</sup>ナビ、君なら絶対受かるよ」

今実は門出なんですよね～。

ダイジェスト……行つとく？

YOU！ 車に入つちゃいなYO！

めんどい、知らん、どうでもいい！

そんな事言わずにワロ？

・・・・・

アッショ！ 今日も私とお風呂入る？

いつも入つて<sup>いる</sup>かのよつに言つんじやあつません～！  
ハツ？！ 性<sup>エロス</sup>からの逃走理由ができる～～！

人付き合いは大切ですよね！

よ～っし！ アッショウ張り切っちゃうよ？

受験日 今こい

「 もちのろんだよー (死語?) やるからには受かつてみせますと もーー 」

「アッショウ…………もし受かっちゃつたり…………そんなのダメ！…………落ちてね！」

「おー姉貴！ いくらなんでもそれはダメだろ……」

「ロイ君の言つとおりだ！ そして俺は絶対に受かる（キリッ）」

「アツシユお兄ちゃんがんばって！」

「ベルは本当にいい子だね。」アメを進呈します!」

「行つてらつしゃー！ であつます」

「おひー！ アイギスとリゴウも家族の事頼んだぞー！」

名残惜しいけどやるそろ行くとしますか。

「じゃあ行つてきます！」

幸せの”ぬ”のハンケチで田元を吹きながら出発～。

「行つたね……」

「ええ……でもアッシュなら平気よー。 だつて私とあなたの息子だ  
もの」

「そうだね。 さて、僕らも家に入らつか

「……はーい」

・・・・・

・・・・

さて問題です。私は今どうしてこるでしょう。

?・歩いている  
?・走つている  
?・たそがれ黄笛たそがれている

まあどれ！ 正解は……

「うひょー！ 空から風景は何時見てもいいね！」

空を飛んでいる！ でした。

飛び方は簡単。丸いボードに乗つてバランスを取るだけ！ ね？  
簡単でしょ？

因みに丸いボードとはグルグルに出てくる中心に水晶が埋め込まれ  
ているあれ。

この世界には魔力があることがわかつてから色々な実験の過程で出  
来た物なんですね～これが。

魔力があるらしいでっせ。

なんか発電機的なので自家発電できない？

出来た！ そりいえばこんなんあつたな……よし！ 創るか。

出来た！ 風が気持ちいいぜ！ 今ここ

そつこいつこむいちに到着…！

side 赤髪の少女

今日私は村の人に送り出されてここにやつて来ました。  
身寄りの無い私のために色々世話を焼いてくれて、尚且つ私のために費用を出してやるからなんてこんな事まで……。  
絶対に受かつてみせます！

そつ決意を固めていたとき……

「到着…」

空から男の子が登場してしまいました……なんで！？

side out

「到着！」

いや～よかつたね～。ん？

「どうした其処の女子よ」

なんか吃驚してたからつい話しかけちゃったぜ～。  
いいね～友達100人計画の第一歩だね！  
まあする気はないんですけどね～。正直友達は信頼できる子とか面白  
白い子とかだけで十分とです。

「どうしたって……君今空から来ましたよねー？」

おっと俺とした事が……。

「俺の名前はアッシュって言つんだ！ そつ呼んでくれ」

「あ……アッシュ君って言つんですね。私の名前はアティって言いま  
す……つて違います！」

「なんだ？ 挨拶は大事だぞ？」

「そうなんです！ そつなんですけどーー！」

いいね！ すゞくいい！ ！ ツツコミ友達は大事だね！

「そんなことばっかりでもいい！ 僕と友達にならひやいなよ！」

！」

「どうでもいいって…… 友達になるのはいいですけど……」

あり？ 反応が悪くない？

「まあいいか。アッシュ君、折角友達になつたんですから合格しますよ！」

ん？ ん？、ん？

「そつか、俺受験で来たんだつけ？」

「田的忘れてる？！」

しまんないね？ 仕方ないね？

可愛こトには旅をさせぬ。……可愛こト俺ー? (後書き)

とこつわけアテイとの邂逅でした。

ヤバイ……設定忘れてるwww

これからも出来るときに更新します! 因みに感想の方はきてれば普通に返せると思います!

……感想があればですがw

誤字・脱字、感想等があればよろしくお願ひします。

テストついで覗いて途端に元気が来るのは俺だけじゃないはず…（前書き）

なんとなくネタが浮かんできたので更新～  
受験なのに何やってるんだろ俺www

テストって聞くと途端に眠気が来るのは俺だけじゃないはず…！

## 軍学校入学試験

Q1

『武器はどんな分類に分けられるか答えよ』

A

『近接武器・剣・短剣・斧・爪etc.  
遠距離武器・銃・弓矢・投げナイフ・クナイetc.  
間接武器・槍etc.  
しかし、短剣や投げナイフ、槍といったものは状況によって使い分けが変わる』

Q2

『サモナイト石の種類の数を答えよ』

A

『5つ』

Q3

『島でのサバイバルでまず優先すべきことを答えよ』

A

『長期を想定するならば飲み水、短期を想定するならば狼煙のための道具』

Q4

『Q3の時に余裕があればしておきたい事を答へよ』

A

『地形の確認と其処に生息する植生の確認。更に出来れば生物も調べられるとなお良い』

Q5

『好きな隊員が水浴びをしていたり。』

A

『体が勝手に……』

Q6

『相手が武器を使つなら?』

A

『いや、今は霸王翔吼拳を使わざるを得ない』

Q7

『アサシンが敵として出たひつ。』

A

『汚い! わすが忍者汚い! ……』

Q8

『アイテムを使用したら?』

A

『アイテムなぞ使ってんじやねえ!』

Q9

『あたいつたら？』

A

『最強ねー！』

Q10

『俺は悪くねえ！』

A

『ヴァン先生が悪いんだ！ 俺は親善大使だぞーー！』

・・・・・

ハツ？！ なんか凄いテストを受けた気がしたが……それに「ペー  
が何か言つてた気が……。  
きつと氣のせいだよな？ なんたつて軍の試験でそんな……。

「あ！ アッシュ君！ テストどうでした？」

アティさんは元氣やの～。

テストって受けた後のダルさって寝てたから来るもの？ それとも頭を使つたから来るもの？

俺としては前者？ そんな気がしてならない！

「お～お～アテイさんは元気やの～。わしはもう疲れて疲れて……

「何で疲れきつておじこさんじ……つてアッシュ君！ 涙の後が……

なん……だと？

「ばれちや～しかたない！ 何を隠そつ即効で終わらせて寝てたの  
ら～」

「そんなんでいいんですかテスト！？」

「テスト＝寝る時間！ お偉いさんはわからんのです！」

「何サムズアップしてるんですか！ しかもテストは寝る時間じや  
あつません！ ……でもその様子なら大丈夫なようですね」

「我輩の辞書に不可能という文字は無い！ しかし辞書が無い！～」

「誇るといひじゃあります！」

アテイって……面白！

こついう人がいると毎日が楽しいよね！ 友達になつてよかつたぜ！

「まあいこじやないのー。とにかくで合否判定って何時出るん?」「

「合否判定ですか? それなら夕方ですね。それまでビラしていません?」

夕方……か。今はお昼だし取り合えず……

「飯行かね? 腹が減つてケシユタルト崩壊を……おも奪るやか?」

「そんな大げさな……行くのはいいんですけど別に奢りはないのですよ」

「おいおいアーティさんよー。こいついう時は男を立たせる所だぜ? それによく言つだら? 男は財布だつて」

「言いません! でもじゃあ……奢つてくれますか?」

「おおっ?! まさかの上田使い! !

しかも天然だぞ! ? こいつには勝てない!

メディック  
衛生兵!

衛生兵! !

「お……おつーーー」

「どうしたんですか? 顔が赤いですよ? もしかして風邪ですか

! ! !

「違うわ鈍感! ええい離せ! 離さんか! !」

「ど……鈍感? 私そんなに鈍感じゃないですよ? それに大丈夫です。私は医学も志望しているので、ある程度の知識はあります」

「的外れ! 压倒的的外れ! ! 僕が言つてんのはそういうことじ

やない！ 赤髪の天然は化物か！…

「じゃあどうこう」となんですか！？」

「何でもない… わたしとどつかに食いに行こう。」

まったく… 僕としたことが先行を許しちゃった。  
天然つて怖いんだな… いや、カレンのような計画された行動も怖  
かつたな…。

結論！ 女性は怖し！ 恐いんじゃない！ 強くて怖いんだ！  
世の男性が尻に敷かれるのは当たり前だつたのか… 僕は逃げる！

でも尻に敷かれたほうが上手く行くってよく言われるよな？  
お… 僕はどうすればいいだあああああ… ドップラー効果

ファミレス到着！ いや別にファミリーじゃないけどな。  
そう言えば言語は と同じなのに何で とは文字が違うんだ？  
まあ今考えても詮無き事だがな…。

「さて、何を食べる？ 別にメニュー全部でもいいぜ？」

「そんなに食べれません！」

「高いもの一択！ とかでもいいのこ～

「そんなにガメてもいません！ じゃあこのパスタを

他人の金で食う飯は最高額のもの一択じゃないのか……。

アティだからか 偏見

「あ、其処のお姉さんすいませーん。」

「メニューがお決まりでしようか?」

「そうです。え~とパスタが一つにこの丼物を一つ、それで後からデザート蘭に書いてあるの全部お願いします」

あれ?アティさんと店員さんがフリーズした……。  
まさか変な注文の仕方だったか!? こいつ田舎もんじゃんだったみたいな?!

畜生! マナーに無学な弊害が!

「本当に全てでよろしいのでしょうか?」

「はい。デザートと思われるもの全部お願いします」

「か……かしらまつました。少々お待ちください」

ふう。大丈夫そうだな……。

こいつ餓鬼なのに金持つてんのかよ的な心配でもしたのかな?

「ほ……本当に全部ですか?」

「ん？ どうしたのアティ？ …… もしかして足りなかつた？  
一ザス！ 僕としたことが女性の要望に答えられないなんて……」  
紳ジエジ  
トルマジ 士失格か

「いえ、むしろ多すぎませんか？」

何言つてんだこの人？

古来から言われてるじゃないか

「デザートは別腹つて言つじやん？」

「言いますけどー！ 言つんですけどーーー！」

「本当にどうしたの？ 大丈夫だよ。俺だつてデザート好きだから  
沢山食べるし」

「そうですか」

顔引き攣らせるほど多いのか？

まあいつか。一人分には少ない位かもしねないし……。

・・・・・

「結構話しこんだじゃいましたね。じゃあ行きましょーつか」

「やつだね」

そのまま話が弾んじゃつて結局時間近くまでフリースに居たよ。ちやんとザートお変わりもしたし、迷惑密じゃないよね？」

「私達乗かつてますよね？」

「心配なの？ 大丈夫大丈夫」

「そんな根拠の無い励ましされても…… でもやうですね。今更ですかね」

「やつやつ。ちやんやつと見て合格確認しきつ」

「やつですね」

なんて言つてゐる間に到着

えーと俺の番号は一三〇四……改めて不吉な数字が一組も（汗）関係ないつたらない！どれどれ……お？ あつたぜ。

「俺のはあつたけどアティは？」

「私もあつました！ これからよろしくお願ひします！」

「ひかりー！ じゃあ早速帰つて荷造りしねーと。また3日後で会おうぜ」

「はい！」

二人はお互に手を振り、別れを告げて家路に着いた。

テストついで覗くと途端に眠気が来るのは俺だけじゃないはず……（後書き）

結構書けたかな？

因みにドップラー効果とは救急車などで見れるあれのことです。

物理でやるんだけど……常識かな？

誤字・脱字、感想等がありましたらおじしくお願いします。

（前編）

みなさん！ 覚えていますか～！

久しぶりに投稿です。受験が忙しいですまる

ほととぎの付くものは罪むといひだと思ひます

「諸君 私はロボットが好きだ  
諸君 私はロボットが好きだ  
諸君 私はロボットが大好きだ

ガンダムが好きだ  
エヴァが好きだ  
エウレカが好きだ  
ナデシコが好きだ  
アクエリオンが好きだ  
ガオガイガーが好きだ  
ゲッターが好きだ  
マジンガーが好きだ  
キングガイナーが好きだ

銃で 剣で

斧で 爆弾で

大砲で ハンマーで  
レールガンで バズーカーで  
ビーム砲で ドリルで

この武器を使う ありとあらゆるロボットが大好きだ

ビームライフルを持った砲兵の一斉発射が 轟音とともに敵を倒すのが好きだ

ファイナルフュージョンが承認された時など心が躍る

アクエリオンの拳が敵を捉えて月面に叩きつけるのが好きだ  
動けない相手にすばやく近づきストライク・パイルで圧縮された  
空気を打ち出すサドン・インパクトを叩きつけた時など胸がすくよ  
うな気持ちだつた

足並みそろえたザクやケンプファーーやアッガイの部隊が敵の倉庫  
を蹂躪するのが好きだ

恐慌状態のビルギットがビームサーベルを振り回している様など  
感動すら覚える

ワイヤーで縫い止めた敵にオーバーヒートを使う様などもうたま  
らない

何も出来ないLFO相手にC B D Tで次々沈めていくのも最高だ  
初号機が暴走して使徒を食べるときなど絶頂すら覚える

ゲッタートマホークを使うのが好きだ

助けに行つたはずの火星の人々をDFで潰してしまったのはとて  
も悲しいことだ

敵の新兵器に押し潰されて殲滅されるのが好きだ

武装を造つている途中に攻められ 寄虫のように地べたを這い回  
るのは屈辱の極みだ

諸君 私はロボットを 物凄いロボットを望んでいる

諸君 私につき従う脳内部隊の諸君 君達は一体何を望んでいる?

更なるロボットを望むか?

情け容赦のない格好いいロボットを望むか?  
ジエットやバーニアで移動するロボットを望むか?

『『『『『クリエイト 創造!! 創造!! 創造!!』』』』』

よろしい ならば創造だ

我々は満身の力を込めて今までに振り下ろさんとする握り拳だ  
だがこの15年もの間耐え続けた我々にただの創造ではもはや足  
りない!!

大創造を!! 一心不乱の大創造を!!

我らはわずかに脳内の千人の技術者に過ぎない

だが諸君は 一騎当千の古強者ふるつわものだと信仰している  
ならば我らは 諸君と私で総兵力100万と1人の技術集団となる  
ロボットをロレイラルのものと追いやっている連中を叩き起しやつ  
新しい兵器をつくり思い出させよう  
連中に素晴らしい力を植え付けてやる  
我々の素晴らしい力を思い出させてやる

天と地のはざまには 奴らの哲学では思いもよらない事があるこ  
とを思い出させてやる

一千人の技術者の戦闘団カンブグルツで世界を震撼させてやる

最後の大隊 大隊指揮官より全脳内艦隊へ

第一次クリエイト作戦 状況を開始せよ

征くぞ 諸君」

起きろ

？ 何だこの声は！ 今はロボ創りの設計図を……  
バース

起きろ！…

「うわ！？ なんだ禿の話か」

なんだよただ長いだけの話やん。別に聞く価値ない。よし寝よう

「なんで貴様は寝る体制に入っているのだ！！」

小声で怒鳴るとは……器用な奴め！ てか誰？

「あんさん誰よ？ 高貴なる眠りの妨げをしてくれちゃったのは  
眠氣により不機嫌

「なんていつてる間に終わつたけどな……」

「なんていつてる間に終わつたけどな……」

まったく、人生の教訓が何じや！ 僕は尊敬する人は決めている……

「まつたく、終わつてしまつたぢやないか。 一緒にクラスになつたら徹底して鍛えて見せる！！」

え～やめて～ やめて～ やめて～（脳内Hマーク）

「そつか～、俺の名前はアッシュ。あんさんは？」

「私の名前はアズリア・レヴィノス！ 覚悟しておけ！！」

「へいへい、了解したよ」

そんなこんなで私事アッシュはそつきまで入学式受けてたよ。なんかこの学校には科が分かれてて、基礎科から入学になつたっぽい。

この隣で睨んでるアズリアって奴とアティも同じみたいだな。

ていうかアティは！？ 隣の席のはずだが……

「……」

まじめに聞いてましたねはい。後のこととはアティに聞けばいいっぽいね。

さて俺はもう一寝入り

「だから寝るな！！」

出来ませんでしたねまる

・・・・・

「突撃！ 私のラボ～！」

「うむ、語呂が悪いね仕方ないね

「「つか！？」もしかしてお前が相部屋の奴か？」

「たぶん？ 俺の名前はアッシュ、お前をんば？」

「俺の名前はバット、ようじく頼む」

「俺はお前に言つておかねばならぬことがある……」

「…………」

「な……なんだ？ それに」の音は？」

「たぶん五月蠅くなるー。許してくじやれ？」

「ズルツ～！」

「ふむ、素晴らしいリアクション！ パーフェクトだ、バット」

因みに音は装置を創りました！ 無駄じゃないよ？ きっと、たぶん、マイビー……

騒音のことは四次元空間を創るまで待つてくんさい！ 出来上がりは騒音なんて出ないから！

「なんで五月蠅いんだ？ 怒鳴るとかは勘弁してくれ。」

「なぜならそれは、機械を創るからだ！－！」

＼バーン／＼バーン／＼バーン／

「お前もなのか？ 実は俺も機械作りが好きなんだよ！－！」

「なんだ、お前さんも類友か！ よし任せろー。直ぐに四次元空間を創つてやる！」

「四次元？ 何じゃそりや？」

やつぱり知らないか……それでこいつやる気も出るけどね。クケケケツ

つまんねーと同じと思つてたけど中々どうじて、面白くなつてきたぞ！

おひがいのたぐいのなまなまじめに思こまへ（後書き）

ものじつじつ久しづつに投稿へ

受験がやがて始まるおひがいのたぐいのなまなまじめに

そんなんでもよろしければお待ちください。

誤字・脱字、感想等がございましたらよろしくお願ひします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0637r/>

---

召還する者と創り出す者

2012年1月8日18時52分発行